

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～20	日 本 史	22～41
世 界 史	42～59	地 理	60～68
数 学	70～75		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

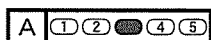
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

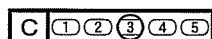
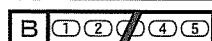
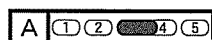
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

6. 問題冊子のページを切り離さないこと。

(地 理)

〔I〕 世界自然遺産に関するつぎの文章を読み、以下の問いに答えよ。解答は解答用紙に記せ。

1960年代、(a) 川の (b) 建設による水没からアプシンベル神殿を救うため、ユネスコが遺跡群を移築して保存する国際的な救済キャンペーンを行ったことを契機に、国際的な協力によって世界的な文化遺産を保護する考え方が打ち出された。また、1965年、世界の優れた自然・景観地域、歴史的地域をリスト化し、維持管理を支援するための国際的な仕組みがアメリカから提案された。こうした流れを受けて、1972年11月にユネスコ総会で「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約(世界遺産条約)」が採択された。2017年4月現在、日本には4つの世界自然遺産がある。

表1 日本国内の世界自然遺産

世界自然遺産	顕著で普遍的な価値・特徴
(ア)	海水の影響を受けた海と陸の (c) の豊かなつながり、動植物ともに北方系と南方系の種が混在することによって、多くの希少種や (d) を含む幅広い生物種が生息・生育するなど、生物の多様性を維持するために重要な地域。
(イ)	東アジアで最大の原生的な (e) 林で、世界の他の地域の (e) 林よりも多様性に富んでいる。 (e) 林の地面には、チシマザサに代表されるような、多雪環境を反映した植生がみられる。
(ウ)	海洋島(※)の著しく高い (d) 率と現在進行形の生物進化がみられる。カタツムリや植物は、環境にあわせて形態を変化させ、種分化を繰り返している。
(エ)	巨大な (f) 天然林の景観と植生の (g) 分布が顕著な島嶼 (c) がみられる。土壌の栄養が乏しく、 (f) の成長は非常に遅く、年輪が緻密で樹脂を多く含み、湿度の高い気候でも腐りにくい。

※海洋島：一度も大陸と陸続きになったことがない島

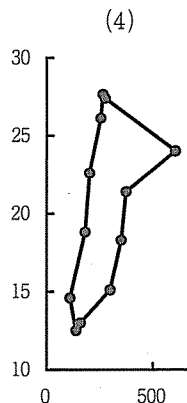
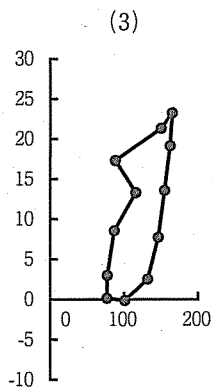
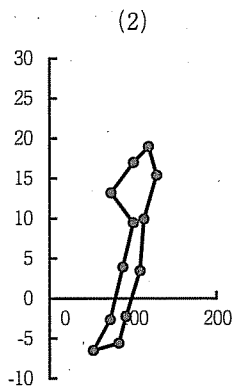
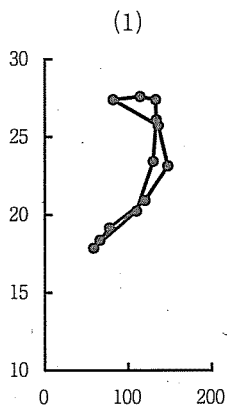
資料：環境省より引用、一部改変

問1 文章中の空欄 (a) (b) にあてはまる最も適当な語句を解答欄に記入せよ。

問2 表1の (c) ~ (g) にあてはまる最も適当な語句を、つぎの選択肢①~⑩から一つ選び、番号で答えよ。同じ記号の空欄には同じ言葉が入る。

- ① スギ ② ヒノキ ③ ヒバ ④ ブナ ⑤ マツ
 ⑥ 外来種 ⑦ 固有種 ⑧ 垂直 ⑨ 水平 ⑩ 生態系

問3 下の(1)~(4)は、4つの世界自然遺産隣接地域のハイサーグラフである。グラフの縦軸は月平均気温(°C)、横軸は降水量(mm)を表している。図中の月名はあえて示していない。(1)~(4)にあてはまる世界自然遺産を表1の(ア)~(エ)より選び、さらに、それぞれの名称を解答欄に記せ。



資料：気象庁平年値より作成

地理

〔Ⅱ〕 植物油に関するつぎの文章を読み、以下の問いに答えよ。解答は解答欄に記せ。

2013年の世界の油脂生産量は約1億8,900万トン、そのうち植物油が80%以上を占める。1990年代まで植物油の中で最も生産量が多かったのは大豆油であったが、2000年代半ば以降はパーム油が大豆油を上回っている。

植物油は一般的に油糧種子から得られるものと、果肉から抽出されるものに大別される。さらに副産物を利用するとうもろこし油を加えた13種が植物油の大半を占める。油糧種子の代表が大豆である。果肉から抽出する植物油の代表がアブラヤシを原料とするパーム油であり、もう一つは 油である。

油糧種子は一般的に収量が低く、経営として成立するには広大な農地が必要とされる。そのため油糧種子生産は特定の国に限定される。2014年の大豆の生産量が多いのはアメリカ合衆国、ブラジル、アルゼンチンの順であるが、大豆油の輸出量の順は異なる。⁽¹⁾一方、機械化に適さないゴマや亜麻等の油糧種子の栽培は発展途上国に限られ、生産地域も分散的である。また油糧種子を原料とする植物油は、種子を輸入し消費国で搾油される場合が多く、果肉から抽出する植物油は現地で生産され、油の形態での貿易が一般的である。

油糧種子に含有される油分は決して多くはなく、大豆でも20%弱であるといわれ、ミールと呼ばれる搾り粕が重量の大半を占める。したがって搾油業はミールを生産する産業であるともいえる。そのミールも重要な原料として利用される。

アブラヤシの果肉から抽出されるパーム油の2013年の生産量が最も多い国は であり、次いで である。アブラヤシは生育上、熱帯が適しているが、しかし自然条件が適するからアブラヤシ栽培が拡大するわけではない。むしろ政府の産業育成策、製造技術、世界の経済状況などが重要な拡大要因である。一方でアブラヤシ栽培の急拡大による問題点も指摘されている。⁽²⁾

1959年にアブラヤシを導入して以来、⁽³⁾パーム油生産を近年拡大させているのがコロンビアである。同国は2013年、バナナ輸出が世界5位、コーヒー豆輸出は世界3位、⁽⁴⁾また切り花輸出はオランダに次いで世界2位である。同国のアブラヤシ栽培地域は、太平洋沿岸地域、マグダレナ川中流域、隣国の にかけて広がるオリノコ川流域の と呼ばれる草原地帯などが主要な栽培地域である。同国のアブラヤシ栽培、それに基づくパーム油生産は輸出を目的として安

価な現地労働力を利用するという典型的な 農業の形態をとるものもあれば、マグダレナ川中流域のようにこれまでの紛争を背景とした社会開発のためや、コカの代替作物として小規模なアブラヤシ栽培を推進してきた地域もあり、その生産形態は多様である。

(日本植物油協会の文章の一部を改変)

問1 文中の空欄 ～ に適する語句を答えよ。なお には国名を答えよ。国名は正式名称でなくてよい。

問2 下線部(1)に関連して、大豆油輸出量の多い国の順の組合せを以下の①～⑥から一つ選び、番号で答えよ。

- ① アメリカ — アルゼンチン — ブラジル
- ② アメリカ — ブラジル — アルゼンチン
- ③ ブラジル — アメリカ — アルゼンチン
- ④ ブラジル — アルゼンチン — アメリカ
- ⑤ アルゼンチン — ブラジル — アメリカ
- ⑥ アルゼンチン — アメリカ — ブラジル

問3 下線部(2)に関連して、日本における大豆ミールの主な利用用途を答えよ。

問4 下線部(3)に関連して、アブラヤシ栽培の拡大に伴って生じているとされる問題点について40字以内で述べよ。

問5 下線部(4)に関連して、2013年のコーヒー豆輸出量の上位2か国を答えよ。順位は問わない。

地理

問6 下の表1は油糧種子を原料とする4つの植物油の2013年の生産国上位5か国と生産量を示している。A～Dの植物油名を以下の①～④から選び、番号で答えよ。

- ① ごま ② なたね ③ ひまわり ④ 落花生

表1 植物油生産量(2013年)

(単位：千トン)

生産国	A油	生産国	B油	生産国	C油	生産国	D油
ロシア	3,284	ミャンマー	329	中国	5,603	中国	1,955
ウクライナ	2,303	中国	220	ドイツ	3,139	インド	1,250
アルゼンチン	1,075	インド	122	カナダ	2,826	ナイジェリア	313
トルコ	875	日本	45	インド	2,305	旧スーダン	281
フランス	579	モザンビーク	38	フランス	1,913	ミャンマー	225

資料：『世界国勢図会』2016/17

〔Ⅲ〕 中国の経済と社会に関する以下の問いに答えよ。解答はすべて解答欄に記せ。

問1 中国の経済発展について述べた次の文①～⑦のうち、適切なものを2つ選び、番号で答えよ。

- ① それまで発展の遅れていた内陸部から市場経済の導入が始まった。
- ② 国有企業を改革して郷鎮企業に転換し、経済発展を促した。
- ③ 改革開放当初は一次産品の輸出、機械類の輸入という水平貿易を中心とした。
- ④ 経済発展に伴い、1993年以降、石炭の輸入国に転換した。
- ⑤ 2009年に日本を抜いて世界第1位の自動車生産国になった。
- ⑥ 2009年に石油の国内生産量が輸入量を上回った。
- ⑦ 2010年、GDPで日本を抜き、世界第2位になった。

問2 中国の主要都市の経済発展について述べた次の文章A～Dを読み、下の問いに答えよ。

- A 1997年に中国へ返還された都市に隣接し、その経済的影響を強く受ける。
中国で最も早く経済特区に指定され、急激な発展を遂げた。
- B コンテナ取扱量世界一の港を有する都市である。1990年代半ばに市域東部の大規模開発が進められ、中国の経済発展をけん引した。
- C 中国内陸に位置する直轄市で、長江中流部に建設された巨大ダムにより、大型船舶の接岸が可能となり、経済発展が進む。
- D 中国の首都で、各種工業が発展する。北西部の中関村には先端技術産業が集積する。

地理

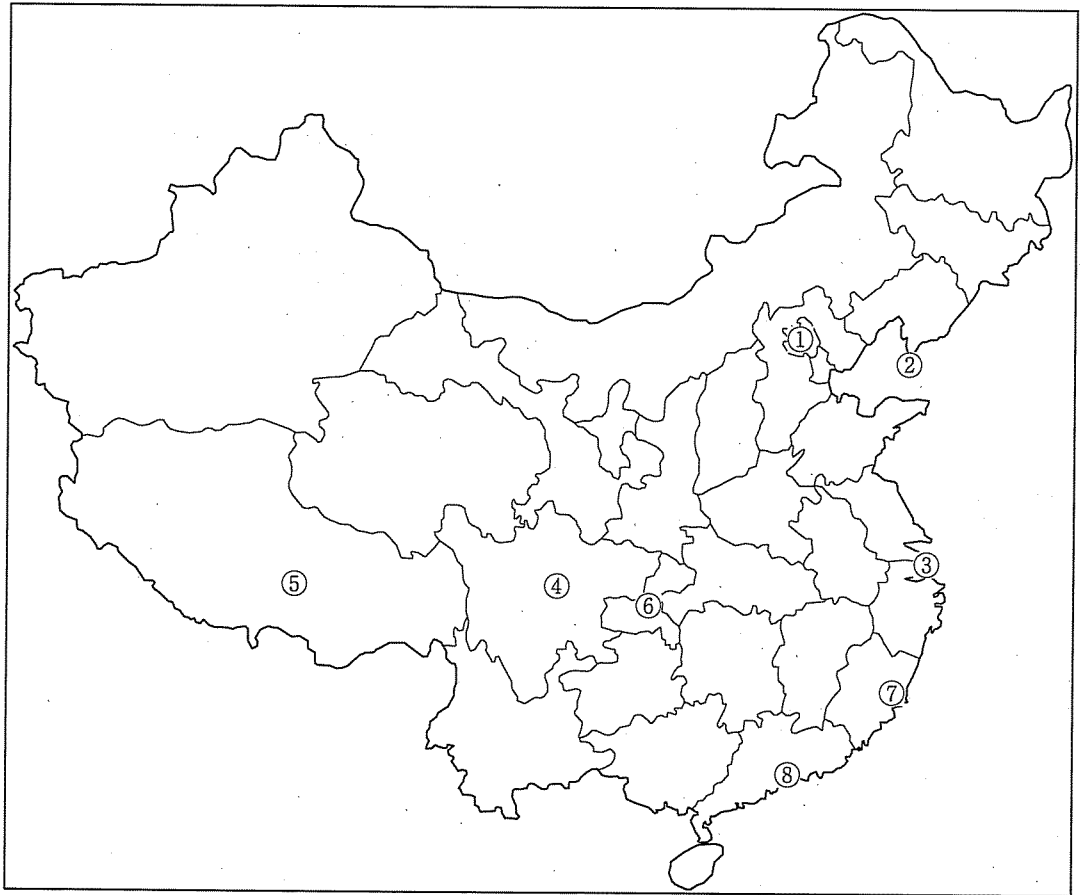


図 1

- (1) A～Dに該当する都市名を答えよ。
- (2) A～Dに該当する都市を図1の①～⑧から選び、記号で答えよ。
- (3) 下線部(イ)に関して、都市の名前を答えよ。
- (4) 下線部(ロ)に関して、開発地区の名前を答えよ。
- (5) 下線部(ハ)に関して、ダムの名前を答えよ。

問3 下の表1は中国の2014年の貿易相手国上位5か国・地域を示したものである。表1のE, F, Gはアメリカ合衆国, 韓国, ドイツのいずれかである。E, F, Gに該当する国をそれぞれ答えよ。

表1

順位	輸 出		輸 入	
1	E	16.9%	F	9.7%
2	香港	15.5%	日本	8.3%
3	日本	6.4%	E	7.9%
4	F	4.3%	台湾	7.8%
5	G	3.1%	G	5.3%

資料)世界国勢図会2016/17

問4 下の表2はアメリカ合衆国, 韓国, シンガポール, 台湾, 中国, 日本の1人当たり貿易額(2014年)と輸出依存度(2014年), 輸入依存度(2014年)を示したものである。H, I, J, Kに該当する国をそれぞれ答えよ。

表2

国・地域名	1人当たり貿易額(ドル)		輸出依存度(%)	輸入依存度(%)
	輸出	輸入		
H	73,596	66,506	131.6	119.0
台湾	13,701	12,064	60.4	53.2
I	11,436	10,495	40.6	37.3
J	1,711	1,434	22.5	18.8
K	5,443	6,403	15.0	17.6
アメリカ合衆国	5,082	7,552	9.4	13.9

資料)世界国勢図会2016/17

地理

問5 中国の民族と文化について述べた次の文①～⑥のうち、適切でないものを2つ選び、番号で答えよ。

- ① 中国の人口は約14億人で世界1位であり、以下、2位インド、3位インドネシアと、アジアの国々が続く。
- ② 漢族が全人口の約9割を占める。
- ③ 政府に認められた少数民族が55族いる。
- ④ 最大の少数民族はチヨワン族で、1,000万人を超える。
- ⑤ 日本に住む華僑、華人は東北地方からの移住者が過半を占める。
- ⑥ シンチヤンウイグル自治区では独立をめぐる紛争が続く。

問6 1970年代後半に始まり、80年代に本格化する一人っ子政策は中国の社会構造や経済発展に多大な影響を与えた。影響をメリットとデメリットにわけて説明せよ。